



## 「Green Reference for Tomorrow」富士通グループは 先進グリーンICTの社内実践に取り組んでいます

富士通グループでは、グリーンICTを通じてお客様・社会の環境負荷の低減とビジネスの成長を両立するプロジェクト「Green Policy Innovation」を推進しています。このたび、その一環として、富士通グループ自らが先進的なグリーンICTを導入・実践し、そこで得られた知見やノウハウをお客様や社会にご提供する「Green Reference for Tomorrow」をスタートさせました。

### 環境負荷低減とビジネスの成長の両立に向けた グリーンICTの実践

環境経営の実現に向けて、社会や企業はビジネスや経済のパフォーマンス向上と環境負荷低減の両立といった一見して困難な課題に果敢にチャレンジしなくてはなりません。富士通グループは、最先端のグリーンテクノロジーやソリューションを駆使して、この「Green Reference for Tomorrow」を「環境経営」「研究開発」「オフィス」「ものづくり」「データセンター」といった5つの現場で展開、そこで得られた知見やノウハウをお客様や社会にご提供します。

#### ■ 「Green Reference for Tomorrow」

<p><b>研究開発</b> 競争力の高い高付加価値の製品をいち早くより低いエネルギーコストで市場に提供します。</p>	<p><b>オフィス</b> 一人ひとりの省エネマインドの向上を図りグリーンなワークスタイルを実現します。</p>
<p><b>ものづくり</b> エネルギー利用を効率化しものづくりの生産性を向上します。</p>	<p><b>データセンター</b> 拡大するクラウド時代のICT基盤の環境負荷を低減します。</p>
<p><b>環境経営</b> 経営・環境に関する全ての情報を一元的に集約し高度なエネルギーマネジメントと、真の環境経営を実現します。</p>	



富士通グループは、先進的な環境への取り組みが評価され、環境大臣より「エコファースト企業」として認定されました。

### 節電目標の達成には全事業所<sup>※</sup>の電力利用状況の リアルタイムな見える化が不可欠

東日本大震災を機に、注目を集めたのが節電対策です。富士通グループでは政府要請の15%に対して20%<sup>※</sup>の電力削減を目標に掲げ、節電に取り組みました。目標達成のために活用されたのが、経営情報や環境情報を様々なソースから集約・分析し、利用者や目的に合わせて活用することで、真の環境経営を実践できる情報システム「環境経営ダッシュボード」です。

「環境経営ダッシュボード」では、全事業所の1時間毎の電力利用状況、目標値との乖離、前年実績との比較、生産計画を踏まえた上での電力需要の先読み等をWeb上で分かりやすく表示します。また、この「環境経営ダッシュボード」は、環境マネージャーだけでなく、経営層や一般社員等利用者それぞれの立場やニーズに合わせて自在に活用することができます。この夏の節電目標の達成にあたっては、「環境経営ダッシュボード」が大いに役立ちました。

これからも富士通グループは、グリーンICTを通じて、お客様・社会のビジネスの成長と環境負荷の低減の両立に貢献してまいります。

※東京電力・東北電力管内

## FUJITSU JOURNAL 富士通ジャーナル

発行 富士通株式会社  
マーケティング本部 宣伝部  
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 (汐留シティセンター)  
印刷 富士通アプリコ株式会社

#### 本誌ならびに本誌掲載の製品・サービスに関するお問い合わせ先

富士通コンタクトライン TEL 0120-933-200  
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)  
URL <http://jp.fujitsu.com/journal/contact/>

※本誌記事中のプログラム名、CPU名、システム名等は各メーカーの商標、または登録商標です。  
※本誌に掲載されている内容については、取材時点によるものです。

©富士通株式会社 2011 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。  
Copyright ©2011 by FUJITSU LIMITED